

## 住宅火災における避難に関する検討会（第3回）

### 議事要旨

- 1 日時：令和4年2月22日（火） 10時00分から12時00分まで
- 2 場所：ほっとプラザ大供5階（軽スポーツ室）
- 3 出席者  
委員等（敬称略、順不同）  
松多委員（座長）、竹内委員（副座長）、水口委員、田中委員代理（太田）  
刈田委員代理（丸川）、加藤委員  
事務局  
消防局予防課 齋藤課長補佐以下4名
- 4 配付資料  
資料1-1 検討会設置要綱  
資料1-2 委員等名簿  
資料2 避難カードゲームの改良について  
資料3 住宅火災における最適な避難のガイドライン（案）について  
資料4 予防広報発表会の分析について
- 5 議事内容（○：委員発言、●：事務局発言）
  - (1) 避難カードゲームの試作品について
    - 火元カードの4枚に番号をふって、わかりやすくしてはどうか。
    - 次回、制作時に取り入れる。
    - 住宅マップの紙を滑りにくい材質にしてはどうか。
    - 次回、制作時に取り入れる。
  - (2) 住宅火災における最適な避難のガイドライン（案）について  
資料3により説明を行った。  
以下、第3章から第7章までの「つぶやき」について
    - つぶやきについては良いと思う。色々なデータが見やすくなっている。目線が少し低いところからコメントをしているということによろしいか。
    - その通りである。

○スペースの問題かもしれないが、つぶやきの意見がそのまま行を変えずに並んでいるので、これを一つ一つ間を開けてはどうか。スペースをとってしまうが、違うことを言っている場合は、行を空けた方がわかりやすいと思う。

●修正する。

以下、第4章の2 他都市での火災事例について

○京都市消防局の例と岡山市消防局の例の間を二重線にしてはどうか。一つ一つが対応していることがわかりやすくなると思う。今の表記は、京都市消防局の方が文字量が少ないので見出しのように見える

●修正する。

○京都市消防局と岡山市消防局の例をどのように市民に活かしていくのか。

●ガイドラインは、避難の具体的な方法という部分には踏み込んでいないため、それを補完するために、京都市消防局の「火災から命を守る避難の指針」を取り上げている。「姿勢を低くする」、「エアマネジメント」等を、住宅火災で活用してもらいたいと考えている。

○同じような事例を2つ並べているという意味でよいか。例えば6番には京都市消防局の事例は「走らない」と書いてあって、岡山は「走った」という記載になっているが。

●不奏功事例として記載している。

○補足として右側と左側の共通事項や、強調したい事柄を太字にすることで、対応しているということを視覚的に理解してもらおう方が良いと思う。

●修正する。

○レイアウトとして、一つの事例が次のページへ移らない方がよい。

●修正する。なお、来年度以降にパンフレットにする際は、レイアウトを改良していく。

○パンフレットにしていくという方向性でよいか。

●そのとおりである。

以下、第8章の1 火災から命を守る4タイプ診断テストについて

○「命を守る4タイプ診断テスト」のタイプ分けの表の中央の点数は何点を示すのか。

●その部分を今回議論したいと考えている。

○「命を守る4タイプ診断テスト」は戸建てのイメージという認識でよろしいか。

●マンションも含めて幅広く考えている。

○点数の配分は、質問の項目によってウエイトを変えた方がよいのではないか。

●その点についても議論していただきたい。

○例えば「何人で住んでいますか」という質問は、1人と6人で点数が5点違う。アンケートの結果から見ると、人数が多い方が避難に時間がかかるっていう結果があったと思うが、点数とアンケート結果は見合っているか。

●点数とアンケート結果のバランスがうまく取れていない部分がある。

○人数を基準に、その他の点数を調整すると良いと思う。

●アンケート結果をもとに「寝室が何階にありますか」という質問は、2点ではなく4点または5点等にするということによいか。

○そのとおりである。ペットについても同様にアンケート結果を基準にして点数化していけると考える。正確な点数ではないかもしれないが、ある程度のエビデンスがあると良い。

○「寝たきりの方がいますか」という質問と「耳が不自由な方はいますか」という質問の違いを明確にした方がよいのではないか。

●第4章の1 聾学校の寄宿舎火災をエビデンスにしている。

○避難カードゲームの「大声カード」と同様に、耳が不自由な方は火災に気が付きにくいという意味であればこのままで良いと思う。

○寝たきりの方がいる場合は、行動において避難をするのに時間がかかる。耳が不自由な方は火災に気がつくのに時間がかかるということによいか。

●そのとおりである。

○点数は0点ベースの方が計算しやすいと考える。

●検討する。

○「耳が不自由な方はいますか」の記述を「覚知が困難な人がいますか」にしてはどうか。火災に気が付くかどうかが大変な要素だと思う。

●検討する。

●点数の配分は、いただいた意見を参考に決めていくこととする。

○委員が「火災から命を守る4タイプ診断テスト」を実施した。

○自分の家を守りたいと感じた。消火できるならば消火したいという考えを自分も持っていることに気づいた。

●テストにより自分自身の考えを見直してもらいたいと考えている。

以下、第8章の2 マイタイムラインの作成について

○「ドアを閉める」というのは玄関のことを指しているのか。

●玄関だけではなく、家にあるドア全てを指している。

○抽象的なところは迷う部分がある。

○「100秒（5つ選らんでください）」という表記は、行動を選択する際に100秒以内に選択するということによいか。

●次に実施する避難訓練の時間を指している。

○頭の中でどれくらい時間がかかるかとイメージした上で、まず自分の行動を並べる。そして避難訓練で実際に時間を検証するという事でよいか。

●そのとおりである。

○自分が行う選択肢があれば、5つ以上選択してもよいか。

●5つ選んでいただきたい。

○各自それぞれの目線で選択すればよいか。

●各自行動は違うと思うので、それでよい。

○行動を5つに限定した場合、「ペットを探す」と「ペットを救出する」という選択肢があるが、2つ選択すると残り3つしか行動できないことになる。そうすると、「ペットを探す」を省略し、「ペットを救助する」のみを選択する人が出てくるのではないか。

●省略することなく5つ選択していただきたい。

○5つに限定した狙いは何か。

●選択肢は、過去の火災事例を基にしている。行動する数を限定することで、実際に火災から避難するときに判断に迷ってパニックになることを防ぐことを狙いとしている。

○避難訓練をした際、水をくむという行為は時間がかかるということを理解して欲しいという意図はわかる。しかし、時間がかかるからと言って、「風呂場に行く」という選択肢を選ばず、「水をかける」という選択肢1つだけを選ぶと、元も子もないのではないかと思う。

○例えば「水をかける」という選択肢は、避難訓練をした際に、水をくむと20秒かかるというのがわかれば良いと思う。その他の選択肢をみても、1つずつの時間は違うはずである。これを鑑みて、数にとらわれず自分の行動全てを並べてみる。その後、避難訓練をした時に100秒でおさめるためには、どの選択肢を削除するべきかと考えれば良いのではないか。

○他の選択肢を見ても「台所に行く」、「階段を降りる」という行為は、同じ選択肢であるように見受けられる。

○「マイタイムライン」で100秒以内にできる行動をイメージする。タイプ別に自分の傾向を把握した上で、選択肢を選ぶというイメージで良いか。

●「火災から命を守る4タイプ診断テスト」を作成する中で、1つの指標として使用できるものを考えたときに、選択肢の数と、時間を制限することを指標にした。避難訓練をした際に、選択した行動をとり、100秒を超える場合は選択した行動のいずれかを減らしてもらおうと考えている。

○承知した。「火災から命を守る4タイプ診断テスト」と「マイタイムライン」がリンクしているということが理解できた。

●Aタイプと診断されると100秒で5つの行動を選択できる。またDタイプと診

断されると100秒で7つの行動を選択できる。このようにタイプ別に自分の傾向に応じて「マイタイムライン」を作っていたきたい。

○承知した。しかし、それを踏まえた上でも「台所に行く」と「火元に行く」という選択肢は、一つで良いと思う。

○選択肢の中で1つにできるものは、1つにまとめた方が良い。そうすることで選択肢が少ない人でも避難まで選択できると考える。

●検討する。

○選択肢の「引きずり出す」は、家族を助けるという意味で良いか。

●家財などを引きずり出すということも考えられる。

○「いつどこで火災が発生したのか」という設定は「マイタイムライン」の枠上に記載した方が良い。

●承知した。設定は、複数の設定を考えている。

○選択肢は、記載されたもの以外を選択できるようにした方が良い。1人1人行動の優先度は異なるため、空白の選択肢を記載し、但し書きを書いた方が良い。

●検討する。

○「火災から命を守る4タイプ診断テスト」のAからDタイプの表記は、名称に変えてはどうか。Aタイプは、「避難に時間がかかりやすいタイプ」等。

●検討する。

○「マイタイムライン」を作成して、自分はどのように避難しようかと真剣に考えることができた。

○当初の目的は概ね達成できていると思う。各自のタイプを診断した後、自分の避難行動を考えるという機会を与える。そうすることで、火災からの避難時に、自分がすべき行動を思い出しながら避難してもらえと思う。

○しかし、重複した選択肢をどう考えるかで、作成の難しさを感じる。

○難しさを、ある程度残しておくのも良いかもしれない。選択肢の意味を考えると、より深く避難行動を考えられるかもしれない。

○避難を前提としたものなので、消火の選択肢は選ばないのではないか。消火を選択することはリスクだと思う。

○まず、避難訓練を1回実施し、消火は時間がかかることをわかってもらい、それでも消火を選択するか判断してもらえば良いと思う。

○全体の方向性はこれで良いと思う。今日あがった意見を検討していただきたい。

●承知した。

### (3) 予防広報発表会における成果物について

9分間の動画を委員が視聴した。

資料4により説明を行った。

- (4) 報告書及びガイドラインの展開について  
次年度のガイドラインの展開について説明を行った。